

みのり

学校ホームページ <http://www.kamonorin-h.nein.ed.jp>

体験入学で高校生と中学生が交流！



【←のうのう登場！】



【ブドウの袋掛け

作業を体験！→】

7月30日(火)、中学生1日体験入学が行われ、昨年を上回る46校249名の中学生と、76名の教員・保護者の皆さんから参加していただきました。

できるだけ高校生の様子を見てほしいと、生徒が前面に立って運営。青海会長窪田大地さんの挨拶、農業クラブ(以下農クラブ)役員による活動紹介、4学科9コースに分かれた体験学習など、高校生がリーダーになって進めました。例年以上に高校生と中学生が親しく交流する機会となりました。

参加した中学生からは、「トラクターを操作してみても良い経験になった(作物、以下略)」「教えてくれた高校生が楽しそうで良かった(野菜)」「ハーバリウムづくり楽しかった、明るい学校だと思った(草花)」「ブドウ園で地中海の環境を再現して育てているのがすごい(果樹)」「ひなの心臓を見られて良かった、高校生が優しくて安心(動物)」「環境が充実、初めて見た道具もたくさんあった(生命情報)」「将来の夢を叶えられそうな高校だったので受検したい(食品製造)」「電動のこぎりの使い方が難しかったが焼き目を付けられて良かった(緑地工学)」「設計図がだんだんできるようになってうれしかった(環境土木)」などの感想が寄せられました。

また、アンケートでは、87.9%が「受検したい」「受検検討したい」と回答してくれました。

中学生の皆さんが本校を理解し、進路意識を高める機会になったようで幸いです。

プロジェクト発表県大会最優秀賞&優秀賞受賞！



7月12日(金)、JA新潟教育センターで、農クラブ夏季大会に合わせ、プロジェクト発表県大会が開催されました。

本校からは、代表の3チームが参加。いずれも校内発表会よりさらに磨きをかけた内容で堂々の発表。分野Ⅲ類で最優秀賞(写真)、分野Ⅰ類で優秀賞を受賞しました。長期間の地道な研究を称えます。

また、本校が主管校を務め、会長の佐藤美咲さんをはじめ農クラブ役員が運営に力を発揮していました。丁寧な準備と円滑な運営、大変立派でした。

おめでとうございます！

- Ⅲ類最優秀賞:「ホタルが舞う故郷を目指して」
生物工学科3年:佐々木菜さん、山川琳子さん、
窪田大地さん、横木久留実さん、番場柊太さん
- Ⅰ類優秀賞:「炭素循環農法に関する研究」
生物工学科3年:堀恵翔さん、重泉房江さん、
森山勇之介さん

北信越大会でも健闘、ダブル優秀賞受賞！

8月22・23日に、松本市中央公民館で、農クラブ北信越ブロック大会が開催され、意見発表大会に佐藤美咲さん(3-5)、プロジェクト発表大会に上記の「ホタル…」チームが参加しました。

最優秀賞は逃したものの、ともに優秀賞を受賞。「堂々と発表していて、聞き取りやすかった」「原稿をよく覚えていた」「地域を活性化したい気持ちがよく伝わってきた」「開発したお菓子は高校生らしく独創性がある」「環境調査から人工飼育、環境整備まで素晴らしい努力が見られる」など、高い評価を受けました。

努力を心から称えます。



月ヶ岡特別支援学校との交流会を開催！



7月17日(水)、月ヶ岡特別支援学校の皆さんが本校を訪問、交流会が開催されました。

開会式の後、3コースに分かれ、マドレーヌづく

くり(写真)、花の寄せ植え、My箸づくりを体験。楽しみながら、同世代の交流が深まりました。

数日後、お礼状(感想が書かれた大きな色画用紙)が届き、生徒一同ホックリうれしい気分になりました。来年も是非お越しください。

農ク平板測量競技県大会、優秀賞受賞！



7月30日(火)、新発田農業高校で、農ク平板測量競技県大会が開催され、本校から環境緑地科環境土木コースの2チームが参加しました。

測量は建設、土木分野の必須の技術で、測量機器が発達した今でも、平板測量は基本中の基本で、毎年競技会が開かれています。

佐藤駿馬さん、須藤熙一郎さん、小湊峻平さんからなるAチームは、優秀賞を受賞。最優秀賞には一步届かなかったものの、「大会までよく練習していた」「直向きな姿勢は今後の糧になる」と顧問から評価の声。Bチームも真摯に取り組んでいたそうです。両チームの健闘を称えます。

農業鑑定競技県大会6名優秀賞、全国へ続け！

8月6日(火)、高田農業高校で、農ク農業鑑定競技県大会が開催されました。本校からは、校内大会上位者の64名が出場しました。

6名が優秀賞を受賞、全国大会(南東北大会)へと続きます。さらなる健闘を期待します。

【農業鑑定競技県大会優秀賞】

- 分野「農業」 原渚翔さん
- 〃「園芸」 堀川真那さん、窪田大地さん、横木久留実さん
- 〃「食品」 坂詰蓮さん
- 〃「森林」 坂上舞さん



目指せ大学、農水版チャレンジセミナー開催！



8月19日(月)、万代市民会館で、「農水版チャレンジセミナー夏季講習会」が開催されました。

新潟大学農学部に進学した先輩の体験談、農業高校からの推薦入試に関する説明、新潟大学農学部准教授の講演、小論文指導を受け、学びの1日となりました。

参加した1・2年生からは「普段の学習+αで自分を磨くことが大切と感じた」「小論文は、自分の意見を、相手が納得するように、筋道立てて述べるのが基本だと感じた」などの声。希望進路の実現にチャレンジするきっかけになったようです。

新潟大学農学部と意見交換会を開催！

8月28日(水)、新潟大学農学部と県内農業高校・総合高校等の意見交換会が開催されました。

生徒の皆さんに知っていてほしいことが多くありました。視野を広げ、自分で自分の限界を決めず、進路をじっくり考えてみてください。

“こんなこと、知っていましたか？”

- 平成29年度に25年ぶりの学部改組が行われ、入学定員が20名増えて175名になった。
- 農学科1学科になり、2年2学期から5つの主専攻プログラムに分かれるので、しっかり基礎+じっくり専門ができるようになった。
- 授業が4学期(ターム)制になり、第2ターム(6月下旬から8月上旬)は、必修科目が少なく、夏休みと合わせて、海外留学や長期インターンシップなどに行きやすいようにした。
- 推薦入試があり、34名定員のうち13名が農業高校等からの特別枠(主専攻プログラムを決めて出願)になっている。高校ごとの人数制限はない。
- 推薦は、小論文50、面接30、出願書類20点のみ。
- 農業高校卒生は、研究室等の中心的存在や農学部幹事会(生徒会みたいな組織)のリーダーが多い。普通高校卒でないからと自分で自分の限界を決めずに頑張してほしい。期待している。
- 推薦入試の人も、大学入試センター試験を受験し、基礎学力を付けてほしい。無駄にならない。

将来の選択肢に入れて挑戦しよう！